令和８年１１月定例会一般質問発言通告表

発言順序	３	議席番号	９	氏名	稲　葉　晃　司　　議員	１／２

発言項目	要旨	答弁者
１　富士宮市立病院のＤＰＣ係数について～地域医療を守るために2026～	(1)　富士市議会令和８年９月定例会において、富士市議会議員の小池智明議員が、「ＤＰＣ標準病院群Ⅰ」の県内29公立病院ＤＰＣ係数順位を示し質問をされていた（ここでいうＤＰＣ係数は病院の努力や実績が反映される「機能評価係数Ⅱ」と「救急補正係数」との合計値を表す）。小池議員によると富士市立中央病院の係数0.1583は県内のＤＰＣ標準病院群Ⅰ、29病院の内、第２位に位置するとのことである。そして、富士宮市立病院は0.1334で第10位に位置するとのことである。ここではその順位の優劣を問うのではなく、同じ医療圏域の公立病院として意識し理解していくことの必要性を感じたため以下伺う。 ①　ＤＰＣ係数の上昇による増収分は、高額な医療機器を購入して売上げを伸ばす増収分とは異なり材料費や人件費がほとんど発生しないため、黒字化や利益率の向上に寄与する。富士宮市立病院における現状の数値をどのように捉えて分析しているのか。 ②　機能評価係数Ⅱは効率性係数、複雑性係数、カバー率係数、地域医療係数と４つの項目から構成されている。富士宮市立病院の効率性係数0.02038は29病院の平均係数0.02179よりも低くなっているが、現状が富士宮市立病院の限界なのか、それともまだ伸びる要素はあるのか。 ③　ＤＰＣ係数が0.01上昇することによる富士宮市立病院の医業収益への影響額はどれほどになるのか。 ④　ＤＰＣ係数を上昇させるための取組は投資とコストのバランスを考えながら行われていることと思うが、どのような取組がなされているのか、また今後、予定している取組はあるのか。 ⑤　令和９年に策定される富士宮市立病院の配置計画が実施されるとＤＰＣ係数にどのように表れるのか。 (2)　医師が働きやすい環境づくりのための取組について伺う。 ①　患者さんの症例で学会に発表するようなケースが発生した際に富士宮市立病院ではどのような対応をするのか伺う。実際に富士宮市立病院であったケースで、抗がん剤治療を進めていく過程において、認知機能が著しく低下していく症状が現れた。市立病院で様々な検査をする中で大変珍しい症例であるということが発覚し、担当医師の話では学会に発表するようなケースになるとのことであった。また、本件については海外の医療機関に問い合わせをしたり、ＡＩを駆使したりとなかなかの労力であったと聞いている。このようなケースでは、発見した担当医、富士宮市立病院にどのような恩恵がもたらされるのか。 ②　医師が学ぶための高度な医学書を市立図書館に整備することは、医師を招聘する上で有効か。	市　長 副市長 教育長 病院長 関係部長

令和８年１１月定例会一般質問発言通告表

発言順序	３	議席番号	９	氏名	稲　葉　晃　司　　議員	２/２

発言項目	要旨	答弁者
	(3)　富士市議会令和８年９月定例会において、金指富士市長は共立蒲原総合病院に関する質問に「蒲原病院を本市とともに構成する静岡市、富士宮市と慎重な協議が必要な内容なので十分に議論を重ねながら進めていく」と答弁された。蒲原病院の問題だけでなく、そもそも同じ医療圏にそれぞれ公立病院を開設している富士宮市と富士市において、病院間の連携や機能分化は言うまでもなく、それらを円滑に進めていく上で両市の市長によるオフィシャルな会談の場を定期的に設けるべきと考えるが、須藤市長はどのように考えているのか伺う。	